

つなぐ



<現在の設立状況(29.2.1)>

まちづくり協議会	21(22 地区)
まちづくり協議会準備会	2(3 地区)

発行：松山市役所 市民参画まちづくり課 TEL:(089)948-6963 FAX:(089)934-3157

H P : <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/chiikicomunity/machidukuri.html>

Vol. 11



まちづくり協議会交流会



12月16日(水曜日)

まちづくり協議会交流会が開催されました。20地区のまちづくり協議会から66名が参加し、活動の紹介や運営上の悩みなどを他地区の協議会関係者やコミュニティ・アドバイザーを交えて意見交換を行いました。

コミュニティ・アドバイザーより



Q.まちづくり協議会としてどのような活動に重点を置いて取り組めばよいのか？

A. 地区内には様々な課題が眠っているはず。その課題をまち協が主体となり積極的に見つけていくことが重要。課題が見つければ新たな活動につながり、より活動が活発になるはず。(讃岐アドバイザー)

A. 今回の交流会のように他地区の意見を聞くことは重要なこと。こういった会をきっかけに地区同士の交流が進めば、共同事業や協力関係が生まれ新たな活動につながる。(若松アドバイザー)

A. 自主財源を確保するとより幅広い活動に取り組めるのではないかと。収益事業や企業からの協賛金、クラウドファンディングの活用など、まち協で自主財源の確保に取り組んでみてほしい。(前田アドバイザー)

Q.既存団体との関係性や住民の理解を深めるには？



A. まちづくり協議会の役割として地域の各団体と協力関係を築くことも大切。事業の共催や財政的な支援などにより、地域で活動する団体の後押しをすることもまち協の重要な役割だと思う。(讃岐アドバイザー)

A. どの地区にもそれぞれ違った魅力や課題が必ずあるはず。そういった地区の特徴をもう一度話し合い、既存団体の活動では不十分な部分や眠っている魅力を活用し、その地区に合ったまちづくりを進めることが大切だと思う。(若松アドバイザー)

A. 住民の理解を得るには情報発信が重要。まち協の事業や成果をメディアやSNS等も活用しながら積極的に発信することが大切だと思う。(前田アドバイザー)

特集

高齢者とまちづくり

くいつまでもいきいきと暮らせるまちに

まちづくり協議会では、今後ますます増加する高齢者の安全対策や認知症予防、健康増進、仲間づくりなどに対する取り組みを実施しているところがあります。松山市も、さらなる高齢者福祉の充実を目指して取り組んでいるところです。

今後は、高齢者の皆さんが自分の住み慣れたまちでいきいきと暮らせるように、地域と市が協働して取り組む必要があります。そこで、今回は「高齢者とまちづくり」にスポットを当て、現状と他市の取り組み例などを紹介します。



〈八坂まち協が運営する“ふれあいカフェ”〉
地元のお寺と協力して住民の交流の場を提供しています。



〈石井まち協の“脳トレ”〉
高齢者の認知症予防を目的に実施しています。



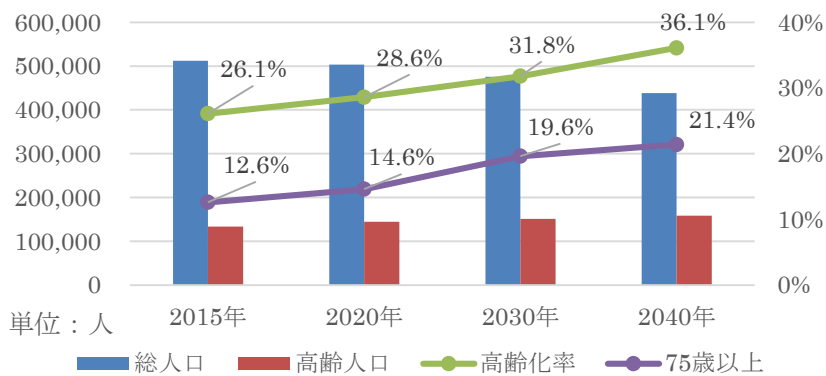
〈三津浜まち協の“高齢者のつどい”〉
日頃、閉じこもりがちな高齢者が気軽に集まれるように実施しています。



・松山市の現状と今後

総務省統計局のデータによると2015年時点で松山市の高齢化率は26.1%ですが、2040年には36.1%に達する予想です。離島や山間部など地区によってはすでに高齢化率が50%を超えている地区もあり高齢化に対応できるまちづくりが急務となっています。

松山市の人口と高齢化率の予測



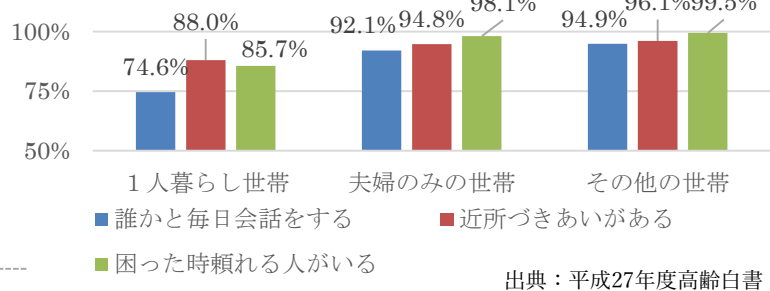
2016年12月時点での高齢化率が中島地区 63.9% 興居島地区 61% 五明地区 46.3% など人口の半分以上が高齢者となっている地域もあります。

高齢者の社会的孤立

高齢者の地域コミュニティからの孤立が社会問題化しています。

生き生きと暮らすためには交流の場や居場所作りが重要です。

高齢者世帯の他者との交流



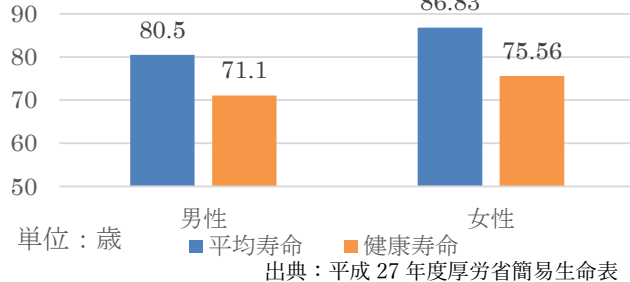
平成27年版の高齢白書によると、高齢者のいる世帯のうち1人暮らしや夫婦のみの世帯では、その他の世帯と比べ、会話や近所づき合いが少なく、社会から孤立しやすい傾向にあるようです。また困ったときに頼れる人がいないと答えた高齢者も1人暮らしの世帯に多く、地域での助け合いが重要となります。

高齢者が気軽に交流できる場や活躍できる場所をつくり、孤立を防いでいくことが今後、地域社会に求められていくのではないのでしょうか。

高齢者の健康づくり

高齢者が健康で生き生きと暮らせるまちにするには、それぞれの地域でできる支援を行うことも重要です。

平均寿命と健康寿命



健康寿命とは病気などで日常の生活の制限がされずに、健康的で自立が出来るという年齢のことです。男性では約9年、女性では約11年平均寿命との開きがあります。



松山市の支援制度

・高齢者向け健康教育

保健師や理学療法士、栄養士などの専門知識を持った職員が介護予防体操や生活習慣の改善、食事指導などを行い、高齢者の方の健康づくりをサポートします。

・予防接種の補助

肺炎球菌感染症の予防接種を受けられる際、一部費用を補助します。肺炎で年間12万人の高齢者が亡くなっており、予防接種を受けることで重症化を防ぐことができます。

歩こう条例

新潟県見附市には「歩こう条例」という条例があります。

多くの住民が歩くことにより健康づくりや環境に優しいまちづくりにつながります。見附市では、地域住民と協力して花壇やウォーキングコースの整備、誰もが気軽に立ち寄れる住民の交流の場を作り、多くの住民が歩きたくなるまちづくりを進めています。また道路の清掃や花壇の手入れを高齢者グループに委託して高齢者の活動の場を作っています。

松山市の支援制度

・徘徊高齢者家族支援サービス事業

徘徊の見られる高齢者に小型の電波発信機を装着し、徘徊時に速やかに発見し家族へ連絡します。

・緊急通報体制整備事業

ひとり暮らしの高齢者等に緊急通報装置を設置し、緊急時に受信センターが迅速かつ適切な措置を講じ、平時には相談を受け付けたり、安否確認を行います。

安心して徘徊できるまち

福岡県大牟田市では認知症の高齢者を地域で支えるまちづくりに取り組んでいます。

福岡県大牟田市では認知症の高齢者を地域で支えるまちづくりに取り組んでいます。福祉施設の職員を中心に認知症コーディネーターの育成を支援し、小中学校では認知症サポーターの養成を行っています。また年に一度市内21校区で一斉に徘徊模擬訓練を行い認知症の方を地域全体で支える体制づくりを行っています。

新たに2つのまちづくり協議会準備会が設立されました！

興居島地区（由良・泊）



人口 1,082 人
世帯数 573 世帯
※H29.1.1 現在



中川 保 会長

「興居島の10年後、20年後についてみんなでよく考え、話し合っていきたいと思います。」

1月16日(月)興居島地区まちづくり協議会準備会の設立総会が開催されました。松山市では23番目の設立となり、興居島地区は人口減少や高齢化の進行といった課題を抱えており、地域課題の解決に一丸となつて取り組んでいきます。

伊台地区



人口 6,048 人
世帯数 2,258 世帯
※H29.1.1 現在



白石 郁朗 会長

「伊台を愛するみなさんと一緒に1人でも多くの人々が住んでよかったです。まちづくりを目指したい。」

12月12日(月)伊台地区まちづくり協議会設立準備会の設立総会が開催されました。松山市では22番目の設立となります。伊台地区は団地開発などで人口が増加している地区でもあり、新旧の住民が協力してまちづくりに取り組んでいきます。



2017年はこんな年！

2017年、松山市では「笑顔つなぐえひめ国体・えひめ大会」と「子規・漱石生誕150年記念事業」の開催が予定されています。まちづくり協議会でもこの機会に関連イベントを企画してみたいかがでしょうか。



えがお 愛顔つなぐえひめ国体・愛顔つなぐえひめ大会

(9月30日(土)~10月10日(火)) (10月28日(土)~10月30日(月))

両大会に全国から訪れる方々に自慢できる美しい“わがまち”をみんなで創り出しましょう。すでに生石まち協による「花のおもてなし活動」や新玉まち協の「JR松山駅周辺のクリーンアップ活動」など、まち協での取り組みが行われています。

正岡子規・夏目漱石生誕150年

松山市では、子規記念博物館での特別展や記念式典など様々な関連イベントが予定されています。八坂まち協では地区にかかわりの深い正岡子規の友人、柳原極堂の生誕150年を記念したイベントが予定されています。

第9回 まちづくりで輝く人 地域で活躍している人を紹介します



松山市コミュニティ・アドバイザー
前田 真 アドバイザー

まちづくりは、苦しいものではなく、楽しいものです。どんな環境であつても楽しさを見つけて、頑張りましょう！

Q まちづくり、地域活動に関わり始めたきっかけを教えてください。

広島大学の(建築学科)に入学し、農山漁村の研究をしている先生に出会ったことよって、地域活動への関心が高まりました。平成10年には、NPO活動をしている方に影響を受けて、より関心が強くなりました。

Q 地域づくりの現場を見てきた中で印象に残っている事を教えてください。

まちづくりの先進地として有名な伊予市双海町で、「まちづくり学校双海」の設立に関わりました。そこには、まちづくりを自分たちで担うという意識が高く、みんなのためにという気持ちで労をいとわない人たちがたくさんいたことに感動しました。

Q 前田先生の考える理想的な「まち」とは？

自分たちで目標を共有し、実現に向けてすべての人たちに番と役割があることです。華々しい成果でなくても、地道に小さなことから積み重ねていける「まち」がいいと思います。